

平成24年度学力向上に向けた取組について

函館市立 大船小学校 学級数 4

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

すすんで考え やりぬく子

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

- ◎ 学校評価の結果分析により「基礎学力の定着」「基本的生活習慣の改善」の課題が明らかとなった。昨年までの校内研修で取り組んできた「道徳的実践力を高める」取組を土台とし、日常の様々な分野で生かすことや道徳以外の教科に発展させることが大切と考えた。各教科・領域での統一した取組が必要と考え、他教科・領域等との関連に配慮することにした。

2 取組の位置付け

- ◎ 教務研究部が中心となり、教育課程の改善・充実を推進

3 取組の方法

- ◎ 学力向上委員会 基礎的・基本的な学力の定着のため、学力の実態把握
 - 全国学力・学習状況調査、CDTⅢの実施・結果分析・全体研修
 - 家庭学習の充実
 - ・家庭学習の手引き配付などによる保護者への啓蒙
 - ・学校としての家庭学習におpushさへの確認
 - ・家庭学習の実態交流
- ◎ 教務研究部 校内研修の推進
 - 興味・関心・意欲を高める「わかる授業」の展開（全員の授業公開）
 - ・個に応じた学習内容の充実
 - ・繰り返し学習の設定
 - ・体験的な学習を通した、実感の伴った学習の実施
- ◎ 指導部
 - 「家庭で取り組む『は・こ・だ・て』」の推進による基本的生活習慣の確立
 - ・「早寝・早起き・朝ごはん」の推進による生活リズムの確立
 - ・各懇談会、通信などを活用した情報発信による保護者への啓蒙
 - 心豊かな子どもの育成を目指す「読書活動」推進
 - ・毎週水曜日に朝読書を実施
 - ・児童による「読み聞かせ」の実施
 - ・読書への関心・意欲を高めるための図書館の整備と環境づくり

4 取組を通してわかってきたこと

- ◎ 学年により学力差が大きく、個別指導への対応に苦慮
 - 一斉と個別の割り振りの工夫
 - 時間割の工夫による指導の充実
 - 異学年での助け合い学習
- ◎ 家庭学習の定着
 - 自主学習による家庭学習が見られはじめた
- ◎ 基本的生活習慣の確立
 - 地域性により困難な時期がある

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・全国学力・学習状況調査の結果分析をしっかりと行い、今後の指導に生かす
(成果) → 100マス計算の導入や家庭学習による漢字練習・音読練習を通じて、力がついてきた。
- ・家庭学習の充実
(成果) → 「家庭学習の手引」の各家庭への一層の啓発を図り、家庭との連携を深めることで、「10分×学年」の学習時間の実現など、徐々に学習習慣定着のための取組が充実した。
- ・「わかる授業」の展開
(成果) → 今年度も全担任が授業公開を行い、「言葉力アップ」の活用の仕方やワークシートのファイリングを進めることで、指導案や教材の共有化が図られた。また、複式学級の授業の進め方を確認することができた。
- ・家庭で取り組む「は・こ・だ・て」の充実
(成果) → 一日の生活リズムのチェックを通じて望ましい生活習慣への意識付けができた。
- ・読書指導の推進
(成果) → 朝読書の充実や学級毎の工夫（読み聞かせ等）により、本の貸し出し数の増加など読書習慣の定着が図られた。

○ 教育課程検証の方法

- ・教務部が中心となり、時数管理など教育課程の進行状況の把握に努め、適正な教育課程の実現を図っている。
- ・学力向上委員会が中心となり、全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、本校児童の実態から導かれる課題を抽出し、学力の向上を目指した教育課程改善に向けた資料を作成・提示している。
- ・学力向上委員会が中心となり、チャレンジテストの活用に取り組み、本校児童の強みや弱みの把握し、教育課程の改善・充実に役立てている。
- ・函館市の「アプローチ」に準拠した項目の整理・追加等を行うことで、学校評価の改善充実を図り、より確かな教育課程の検証を目指している。
- ・児童アンケート・保護者アンケート・地域アンケートの内容について検討・改善を行い、様々な角度から教育課程の実施状況について分析・検討を図っている。